

三菱電機 **ビル** 空調管理システム
三菱電機 スリムエアコン用

共通

MA スムースリモコン

形名

PAR-26MA2

据付工事説明書

販売店・工事店様用

このたびは三菱電機製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- ご使用の前に、この据付工事説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。この据付工事説明書は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管し、必要なときお読みください。
- 「据付工事説明書」は大切に保管してください。
- 添付別紙の「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」は大切に保管してください。
- お客様ご自身では、据付けないでください。（安全や機能の確保ができません。）
- この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

もくじ

安全のために必ず守ること	3
1. 各部のなまえ	11
2. 使用部品	12
2-1. 同梱部品	12
2-2. 別売部品	13
2-3. 一般市販部品	13
2-4. 製品の運搬と開梱	14
3. 使用箇所（据付工事の概要）	15
3-1. 使用部品の取付位置	15
3-2. 従来工事方法との相違	15
3-3. 一般市販部品の仕様	16
4. 据付場所の選定	17
4-1. 法規制・条例の遵守事項	18
4-2. 公害・環境への配慮事項	18
4-3. 製品の機能性能を発揮するための事項	19
4-4. 保守・点検に関する事項	20
5. 据付工事・電気工事	21
5-1. 建物の工事進行度と施工内容	22
5-2. 届出・報告事項	22
5-3. 据付と電気工事をする	23
5-4. サービス	30
6. 据付工事後の確認	31
6-1. 据付工事のチェックリスト	31
6-2. リモコンの設定	31
6-3. 温度センサの設定	32
6-4. 保護シートの取り外し	32

7. 初期設定	33
7-1. リモコン機能選択	33
7-2. ユニット機能選択	40
7-3. 換気設定	49
8. サービスメニュー	54
9. 試運転	56
9-1. 試運転の準備	56
9-2. 試運転の方法	56
9-3. 試運転	57
10. 修理を依頼する前に	58
10-1. リモコン診断	58
11. お客様への説明	60
12. 法令関連の表示	61
12-1. 日常の保守	61
12-2. 点検時の交換部品と保有期間	62

この説明書は三菱電機 **ビル** 空調管理システム、直膨式マルチエアコン室内ユニット（Cタイプ以降）用と三菱電機スリムパッケージエアコン用共通の MA リモコンの据付工事についてのみ記載しております。よくお読みのうえ、正しく据付けてください。なお空調機本体への配線、および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付説明書をご覧ください。

本説明書につきましては、据付工事完了後にお客様にお渡しください。

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(発火注意)



(感電注意)



(一般指示)

- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しく下さい。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しく下さい。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しく下さい。



警告

電気配線工事は「第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）」の資格のある者が行うこと。

一般事項

警告

油・蒸気・有機溶剤・腐食ガスの多いところ、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーを頻繁に使用するところにコントローラを据え付けないこと。

- ◆ 電気部品腐食による感電・性能低下・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

改造はしないこと。

- ◆ けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

コントローラを水・液体で洗わないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

注意

先のとがった物で表示部・スイッチ・ボタンを押さないこと。

- ◆ 感電・故障のおそれあり。



使用禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆ お買い上げの販売店・お客様相談窓口に連絡すること。
- ◆ 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

コントローラのカバーを取り付けること。

- ◆ ほこり・水が入ると、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

据付工事をするときに

⚠ 警告

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏えいのおそれがあるところにコントローラを設置しないこと。

- ◆可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

梱包材は破棄すること。

- ◆窒息事故のおそれあり。



指示を実行

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- ◆コントローラの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。

- ◆ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

コントローラの据付けは、販売店または専門業者が据付工事説明書に従って行うこと。

- ◆感電・火災のおそれあり。



指示を実行

"パチッ"と音がするまではめ込むこと。

- ◆はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。



指示を実行

電気工事をするときに

警告

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

電気工事は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

注意

コントローラの内部に配線の切くずが入らないようにすること。

◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

配線引込口をパテでシールすること。

◆ 露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

シールド線を使用する場合、シールド部の絶縁処理を行うこと。

◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



指示を実行

移設・修理をするときに



コントローラの分解・改造はしないこと。移設・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

◆けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

お願い

コントローラを病院・通信・放送設備がある所に据え付ける場合は、ノイズ対策を行ってください。

- ◆ ノイズにより医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。
- ◆ ノイズにより映像放送の乱れ・雑音が生じるおそれあり。
- ◆ インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響によるコントローラの故障・誤動作のおそれあり。

コントローラを導電性があるところ（塗装をしていない金属面など）に据え付けしないでください。

- ◆ 故障・誤動作のおそれあり。

コントローラのケースから基板保護シート・基板は取り外さないでください。

- ◆ 故障のおそれあり。

ネジを締めすぎないでください。

- ◆ 損傷するおそれあり。

マイナスドライバーをコントローラのツメにはめ込んだ状態で強く回転させないでください。

- ◆ ケースが損傷するおそれあり。

マイナスドライバーをコントローラのツメに強く差し込まないでください。

- ◆ 基板が損傷するおそれあり。

コントローラのケースに追加穴を開けないでください。

- ◆ 損傷するおそれあり。

直射日光のあたる場所、または周囲温度が40℃以上・0℃以下になる場所にコントローラを据付けしないでください。

- ◆ 変形・故障のおそれあり。

意匠カバーを上ケースから取り外して加工してください。

- ◆ 取り外さないで加工した場合、基板が破損するおそれあり。

コントローラの配線はクランプにはめて固定してください。

- ◆ 固定していない場合、端子台に直接力が加わり断線のおそれあり。
- ◆ 上ケースがはめ込めないおそれあり。

コントローラの配線を端子台に接続する際に、圧着端子を使用しないでください。

- ◆ 基板と接触し故障のおそれあり。
- ◆ カバーと接触しカバー損傷のおそれあり。

コントローラのコネクター接続後、ケースをぶら下げないでください。

- ◆ 断線し、動作に支障をきたすおそれあり。

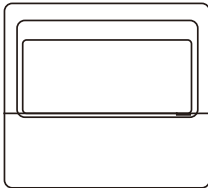
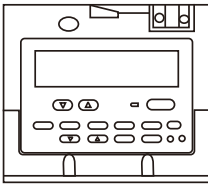
1. 各部のなまえ

接続して使用する取扱説明書を参照してください。

2. 使用部品

2-1. 同梱部品

箱の中には、この説明書の他に次の部品が入っていますのでご確認下さい。

No.	品名	個数 (個)	外観	備考
1	リモコン	1		カバー
				本体
2	十字穴付きナベネジ M4 × 30	2	—	
3	木ネジ M4.1 × 16	2	—	壁に直接据付ける場合

2-2. 別売部品

以下の部品は、三菱電機指定の純正部品をお使いください。

No.	品名	形名	個数 (個)	備考
1	リモコンケーブル	PAC-YT81HC	どちらか	10 m
		PAC-YT82HC(※ 1)	1	20 m
2	リモコン用スペーサ	PAC-YT83RS	1	設置壁面の影響を受けやすい場所に、かつリモコンの温度センサを使用する場合

(※1) シティマルチ S (PUSY-P80, 112 形)、スリム K (PUZ-KP140, 160 形) および通信基地局冷却システム (PKZ/PEZ/PFZ) の機種と接続する場合は使用できません。

2-3. 一般市販部品

下記の部品は現地にて調達してください。

品名	仕様	所要量	備考
スイッチボックス	2 個用 (JIS C8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管	(JIS C8305)	必要量	
ロックナット、ブッシング	(JIS C8330)	必要量	
モール	(JIS C8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ		適量	
モリーアンカー		必要量	

品名	仕様		所要量	備考
リモコンケーブル	種類	CVV, CVS, VVR, VVF, VCT	必要量	シティマルチ S (PUSY-P80, 112 形)、スリム K (PUZ-KP140, 160 形) および通信基地局冷却システム (PKZ/PEZ/PFZ) と接続し、リモコン配線の総延長 (※ 3) が 10m 以上で使用する場合はシールド線 (MVVS:0.3mm ² 2 心ケーブル) を使用してください。(※ 4)
	線数	2 心ケーブル		
	線径	0.3 ~ 1.25mm ² (※ 2)		

(※2) 作業上、0.75mm² までの線径を推奨します。

(※3) 室内ユニットの MA リモコン用端子台 (TB15) 間の渡り配線も含みます。

(※4) シールド線のアースは室内ユニットの MA リモコン用 S 端子に接続してください。

2-4. 製品の運搬と開梱

2-4-1. 製品の運搬

できるだけ水平に保ち静かに運搬してください。

2-4-2. 製品の開梱



警告

梱包材は破棄すること。

◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を実行

3. 使用箇所（据付工事の概要）

3-1. 使用部品の取付位置

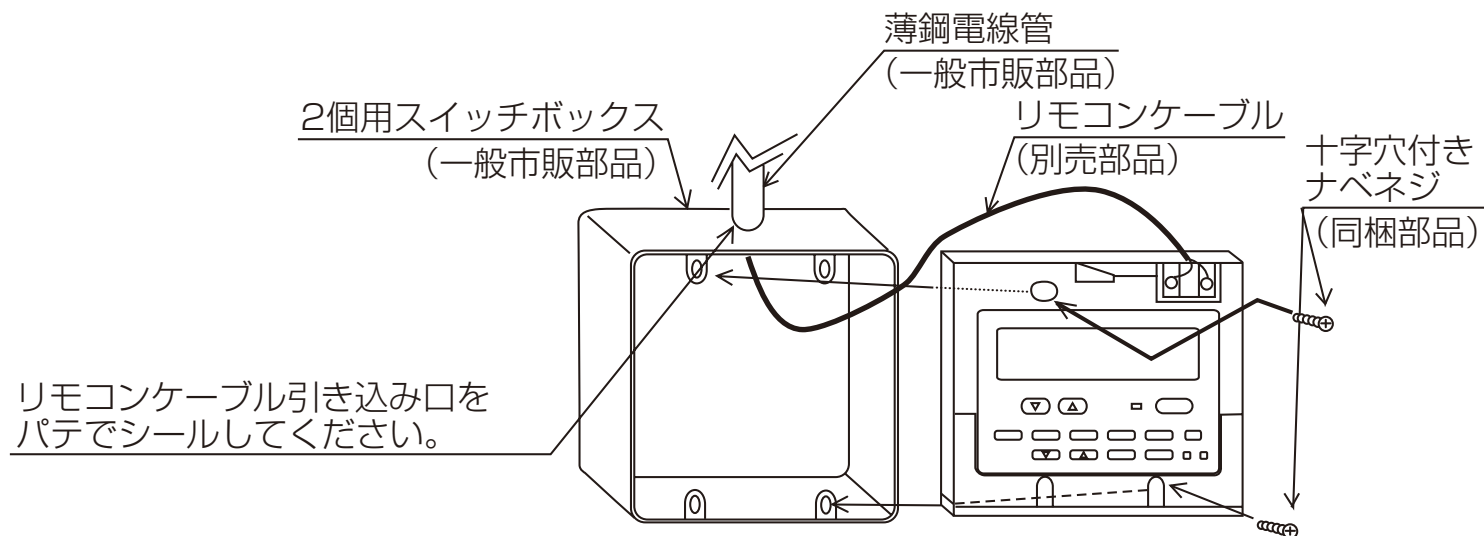
使用部品の取付位置の詳細は、「3-3. 一般市販部品の仕様」を参照してください。

3-2. 従来工事方法との相違

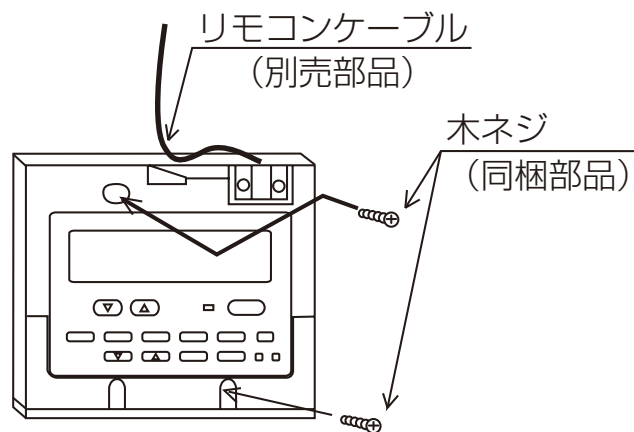
特にありません。

3-3. 一般市販部品の仕様

[1] スイッチボックスを使用する場合



[2] 壁面に直接据付ける場合



4. 据付場所の選定

⚠ 警告

油・蒸気・有機溶剤・腐食ガスの多いところ、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーを頻繁に使用するところにコントローラを据え付けないこと。

- ◆ 電気部品腐食による感電・性能低下・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏えいのおそれがあるところにコントローラを設置しないこと。

- ◆ 可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

⚠ 注意

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ注意

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- ◆ コントローラの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

4-1. 法規制・条例の遵守事項

法規制、地方条例などを遵守することを配慮して据付場所を選定してください。

4-2. 公害・環境への配慮事項

公害や環境に対し配慮して据付場所を選定してください。

4-3. 製品の機性能を発揮するための事項

本リモコンは壁面に据付ける仕様となっています。「スイッチボックスを使用する」または「壁面に直接据付ける」が選択できます。「壁面に直接据付ける」場合、配線取り出し方法を「背面取り出し」または「上部取り出し」から選択できます。

リモコン（スイッチボックス）を、次の条件を満たす場所に据付けてください。

(1) リモコンが正確な室内温度を検知できる所

室内温度を検知する温度センサはリモコンと室内ユニットの両方に付いています。リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合は、主リモコンに設定したリモコンが室温を検知します。この場合、下記事項を守ってください。

- リモコンは、熱源の影響を受けない場所に据付けてください。
(直射日光やエアコンの吹き出し空気が直接あたる場合、リモコンが正確な室温を検知できません。)
- リモコンは、部屋の平均的な温度を検知できる場所に据付けてください。
- リモコンの温度センサ付近に他の配線が無い場所に据付けてください。
(配線がある場合、リモコンが正確な室温を検知できません。)

お願い

室温と壁温の差が大きい場合、リモコン設置壁面の表面付近の温度を検知するため室温と差が出るおそれがあります。

以下のような設置条件の場合、室内ユニットの温度センサ使用を推奨します。

- 室内の気流分布が悪く、リモコン設置壁面に吹き出し空気が到達しにくい場合
- 設置壁面の温度と室温の差が大きい場合
- 設置壁面の背面が外気に接している場合

お知らせ

- 急激な温度変化がある場合、温度検知の追従性が悪くなります。
- 設置壁面の影響を受けやすい場所に、かつリモコンの温度センサを使用する場合、別売のリモコン用スペーサ（形名：PAC - YT83RS）を使用してください。

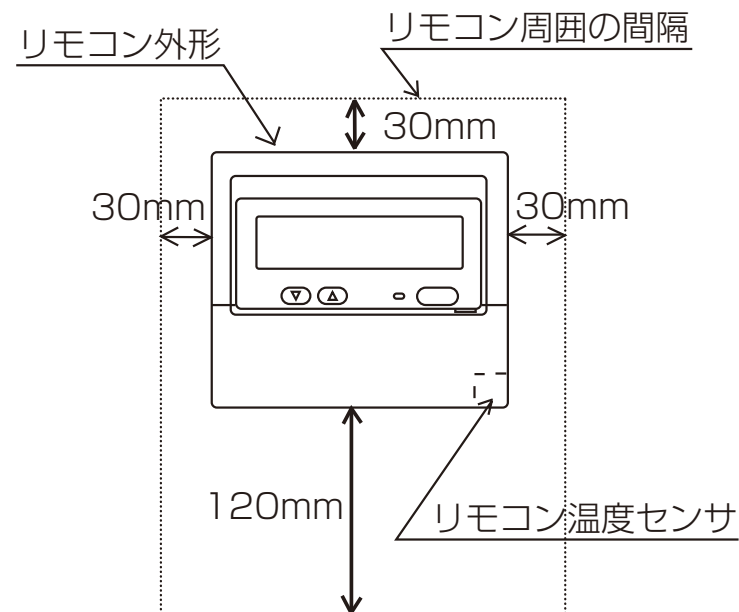
(2) 据付面が平らな所

- ・ リモコンは、凹凸のない平らな場所に据付けてください。

[1] 据付スペース

リモコンをスイッチボックス・壁面のどちらに据付ける場合でも右図に示すスペースを確保してください。スペースが不足すると、リモコンを外しにくくなります。

また、リモコン正面側には操作ができるスペースを確保してください。



4-4. 保守・点検に関する事項

保守・点検に関する事項を配慮して据付場所を選定してください。

工事をされた方は、顧客と保守契約を結び、本製品を含む空調システムが安全に、かつ良好な状態で運転していることを定期的に確認してください。

5. 据付工事・電気工事

⚠ 警告

改造はしないこと。

- ◆ けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

コントローラのカバーを取り付けること。

- ◆ ほこり・水が入ると、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電気工事は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

注意

コントローラの据付けは、販売店または専門業者が据付工事説明書に従って行うこと。

◆ 感電・火災のおそれあり。



指示を実行

5-1. 建物の工事進行度と施工内容

据付場所に据付けられる状態になりましたら、据付工事を行ってください。

[1] スイッチボックスを使用する場合

壁面仕上げ材を取り付ける前にスイッチボックスを取り付け、電線管と接合しておき、事前にケーブルを通してください。その後壁面仕上げ材を取り付けてください。

[2] 壁面に直接据付ける場合

壁面仕上げ材を取り付ける前にリモコンを取り付ける予定のところにケーブルを配線してください。その後壁面仕上げ材を取り付けてください。

5-2. 届出・報告事項

特にありません。

5-3. 据付と電気工事をする

5-3-1. 必要工具

- ・ マイナスドライバー（刃幅 4～7 mm）
- ・ ナイフ
- ・ ニッパー
- ・ その他一般工具

5-3-2. 据付準備

据付工事には「スイッチボックスを使用する場合」と「壁面に直接据付ける場合」があります。据付け方法に応じて工事を行ってください。

[1] スwitchボックスを使用する場合

⚠ 注意

配線引入口をパテでシールすること。

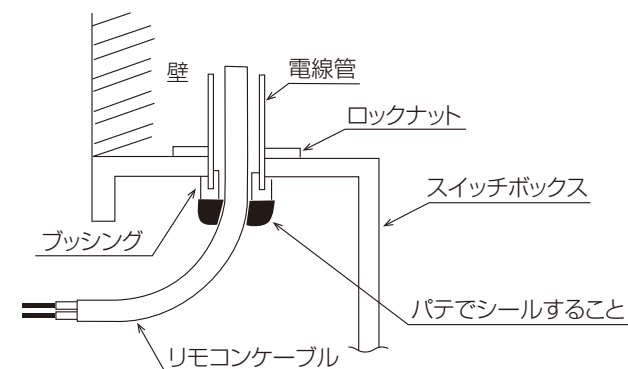
- ◆ 露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

手順

1. スwitchボックスに合わせて壁面に穴をあける。
2. リモコンケーブル引入口をシールする。
スイッチボックスと電線管の結合部のリモコンケーブル引入口をパテでシールしてください。



[2] 壁面に直接据付ける場合

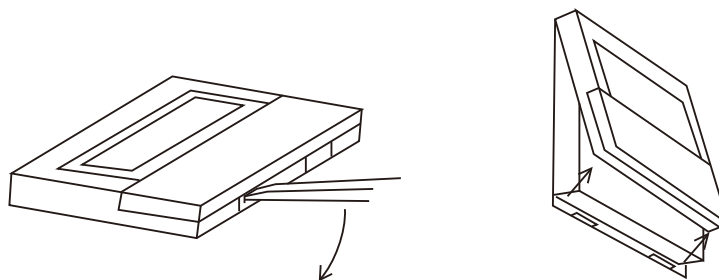
手順

1. リモコン取り付け予定位置の壁面に穴をあける。
＜壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合（リモコンケーブルをリモコン背面から出す場合）のみ＞

5-3-3. リモコンの準備

手順

1. リモコンカバーを外す。
刃幅 4 ～ 7mm のマイナスドライバーをリモコン下部 2 箇所のツメ部分のいずれかに差し込み、矢印で示す方向に動かします。
引っかかっているツメが外れますのでカバーを手前上に引いて取り外してください。



お願い

マイナスドライバーをコントローラのツメにはめ込んだ状態で強く回転させないでください。

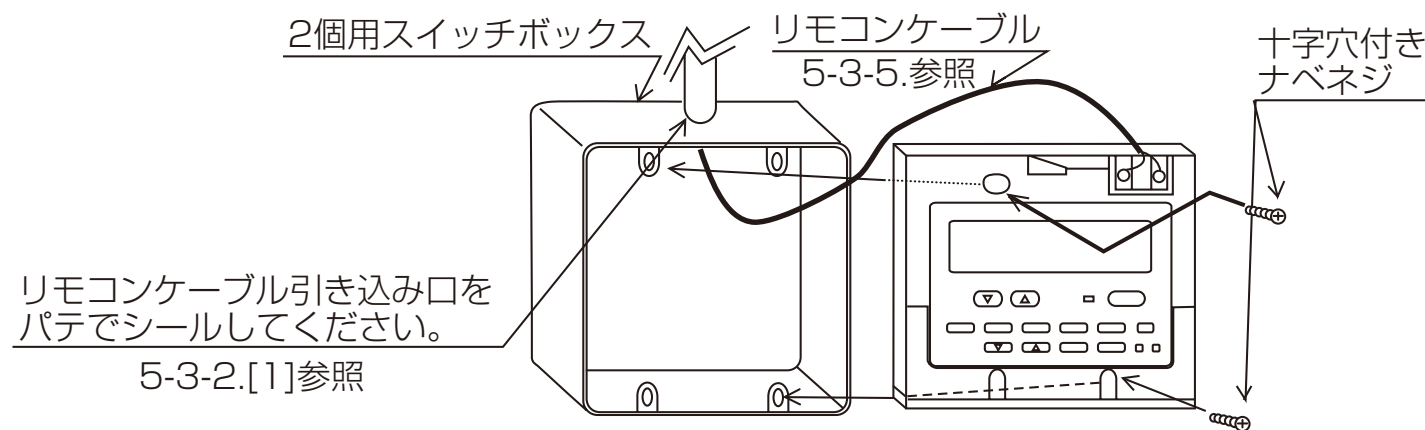
◆ ケースが損傷するおそれあり。

5-3-4. リモコン本体の据付け

[1] スイッチボックスを使用する場合

手順

1. リモコン本体をスイッチボックスに取り付ける。
2 か所以上固定してください。
据付け面は平らな所をお選びください。



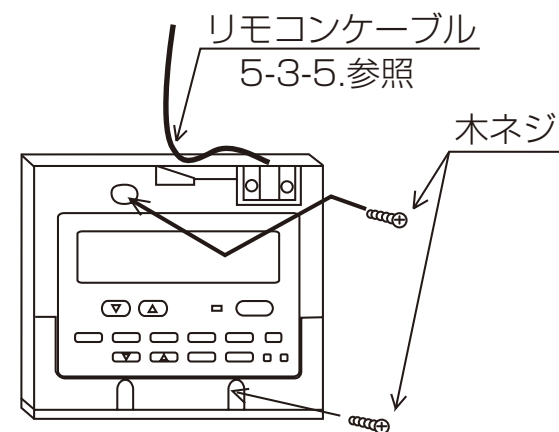
[2] 壁面に直接据付ける場合

手順

1. リモコン本体を壁面に取り付ける。
2 か所以上固定してください。
壁面からリモコンが浮くことを防止するため、リモコン正面から見て左上と右下の 2 か所固定してください。モリーアンカーなどを使用し固定してください。
据付け面は平らな所をお選びください。

お願い

- ネジを使用してリモコン本体を固定する場合は、 $0.8\text{N}\cdot\text{m}$ 以上のトルクで締めないでください。下ケースの変形、割れのおそれがあります。



5-3-5. リモコンケーブルの接続

⚠ 注意

コントローラの内部に配線の切くずが入らないようにすること。

◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

シールド線を使用する場合、シールド部の絶縁処理を行うこと。

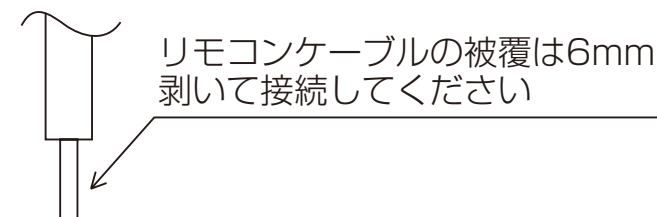
◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



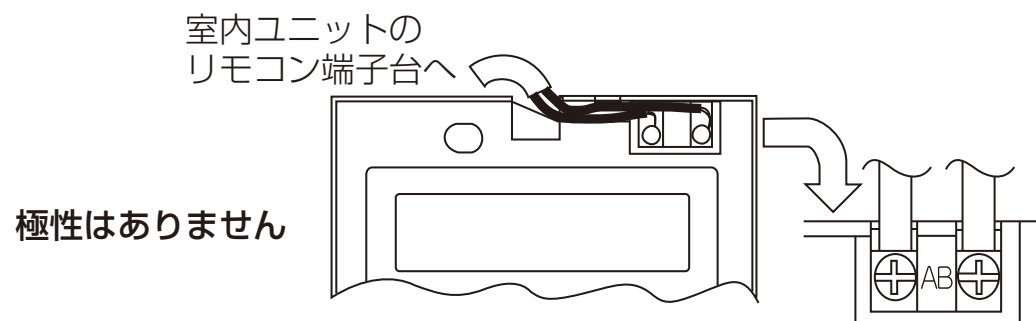
指示を実行

手順

1. リモコンケーブルを加工する。
 - ※ シールド線 MVVS を使用する場合、シールド部が製品内でショートしないようテープなどで絶縁処理を行ってください。



2. リモコンケーブルを端子台に接続する。



お願い

コントローラの配線を端子台に接続する際に、圧着端子を使用しないでください。

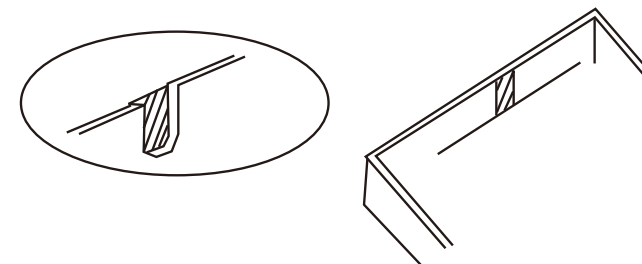
- ◆ 基板と接触し故障のおそれあり。
- ◆ カバーと接触しカバー損傷のおそれあり。

5-3-6. リモコンカバーの加工

<壁面に直接据付ける場合で、かつ壁面にリモコンケーブルを這わす場合のみ>

カバーの内側薄肉部（右図の斜線部）をナイフ・ニッパーなどで切り取ってください。

端子台に接続したリモコンケーブルをこの部分から取り出します。



5-3-7. リモコンカバーの取り付け

⚠ 注意

"パチッ"と音がするまではめ込むこと。

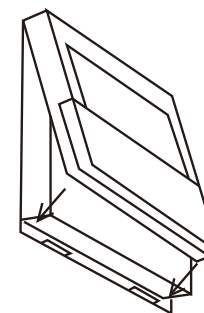
- ◆はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。



指示を実行

手順

1. 本体にカバーを取り付ける。
上部爪（2カ所）を先に掛けて、右図のように本体にはめ込みます。



5-3-8. リモコンケーブルの取り出し

⚠ 注意

配線引込口をパテでシールすること。

- ◆露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。

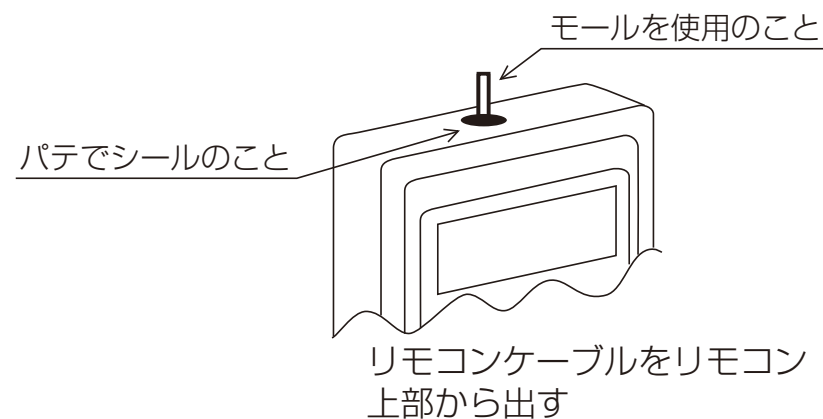


指示を実行

[1] 壁面にリモコンケーブルを這わす場合

手順

1. カバーの切り取った部分よりリモコンケーブルを取り出す。
2. カバーの切り取った部分をパテでシールする。
3. リモコンケーブルを壁面で引回す場合はモール（配線カバー）を使用する。



[2] 壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合

手順

1. リモコンケーブルをリモコン背面から取り出す。
2. リモコンケーブルを通した穴をパテでシールする。

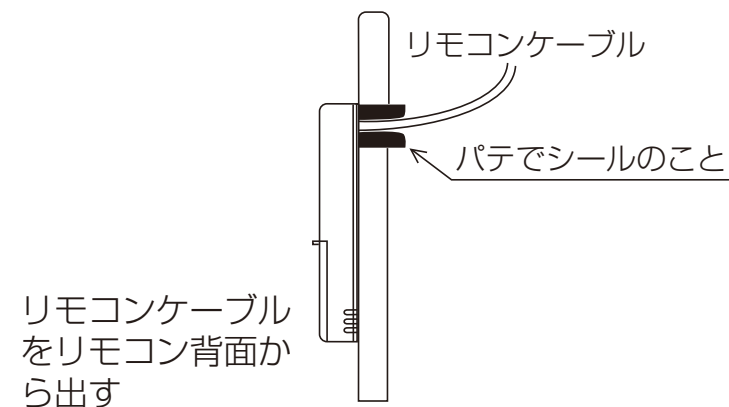
⚠ 注意

配線引込口をパテでシールすること。

- ◆ 露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行



5-4. サービス

再度取り外す場合は取り付け手順を参考にして行ってください。

6. 据付工事後の確認

据付工事が完了しましたら、次項の「据付工事のチェックリスト」に従ってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。（機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません）

6-1. 据付工事のチェックリスト

確認項目		確認結果
設置環境	設置周りは必要な空間が守られていますか。	
リモコン	リモコンケーブルの切屑などが端子台に入っていないですか。	
	リモコンケーブル引き込み口はパテ等でシールしましたか。	
	意匠カバーと上ケースに浮きがなくはめ込んでいますか。	
	正確な温度を検知していますか。	

6-2. リモコンの設定

リモコンの主／従設定は、「7-1. リモコン機能選択 [3] - (1)」を参照してください。

6-3. 温度センサの設定

温度センサの設定は、「マルチエアコンシステム室内ユニットの据付工事説明書」、「スリムエアコンでは 7-2. ユニット機能選択」の項を参照してください。

6-4. 保護シートの取り外し

工場出荷時、カバーの操作面に保護シートを貼っています。
ご使用前に、保護シートをはがしてください。

7. 初期設定

7-1. リモコン機能選択

リモコン機能選択モードでは下記のリモコンの機能を設定変更できます。必要に応じ、設定変更をしてください。

大項目	中項目	小項目（設定内容）
[1] 言語切替 (CHANGE LANGUAGE)	表示する言語の設定を行います。	• 多言語表示ができます。
[2] 機能制限	(1) 操作制限機能設定（操作ロック）	• 操作制限（操作ロック）の範囲を設定します。
	(2) 自動モード使用設定	• 運転モードの「自動」使用有無を設定します。
	(3) 温度範囲制限設定	• 温度調節範囲（上限・下限値）を設定します。
	(4) 昇降機能モード使用設定	• 昇降機能モードの使用有無を設定します。
	(5) 風向固定モード使用設定	• 風向固定モードの使用有無を設定します。
[3] 基本機能	(1) リモコン主／従設定	• 主リモコン、従リモコンを切替えます。 ※ 1 グループ 2 台接続時どちらか一方を『従』設定にします。
	(2) タイマー機能設定	• 使用するタイマーの種類を設定します。
	(3) 異常時の連絡先設定	• 異常発生時に連絡先の電話番号を表示させることができます。 • 電話番号の設定をします。
[4] 表示切替	(1) 温度表示℃／°F 設定	• 表示する温度単位（℃／°F）を設定します。
	(2) 吸込み温度表示設定	• 室内（吸込み）温度表示の有無を設定にします。
	(3) 自動冷暖表示設定	• 自動モード運転時の「冷房」「暖房」表示有無を設定します。

【機能選択の流れ】

1) 空調機を停止状態にして、リモコン機能選択モードに移行する→2) 大項目を選択する→3) 中項目を選択する→4) 小項目（内容を設定する）→5) 設定完了→6) 通常画面に移行する（終了）

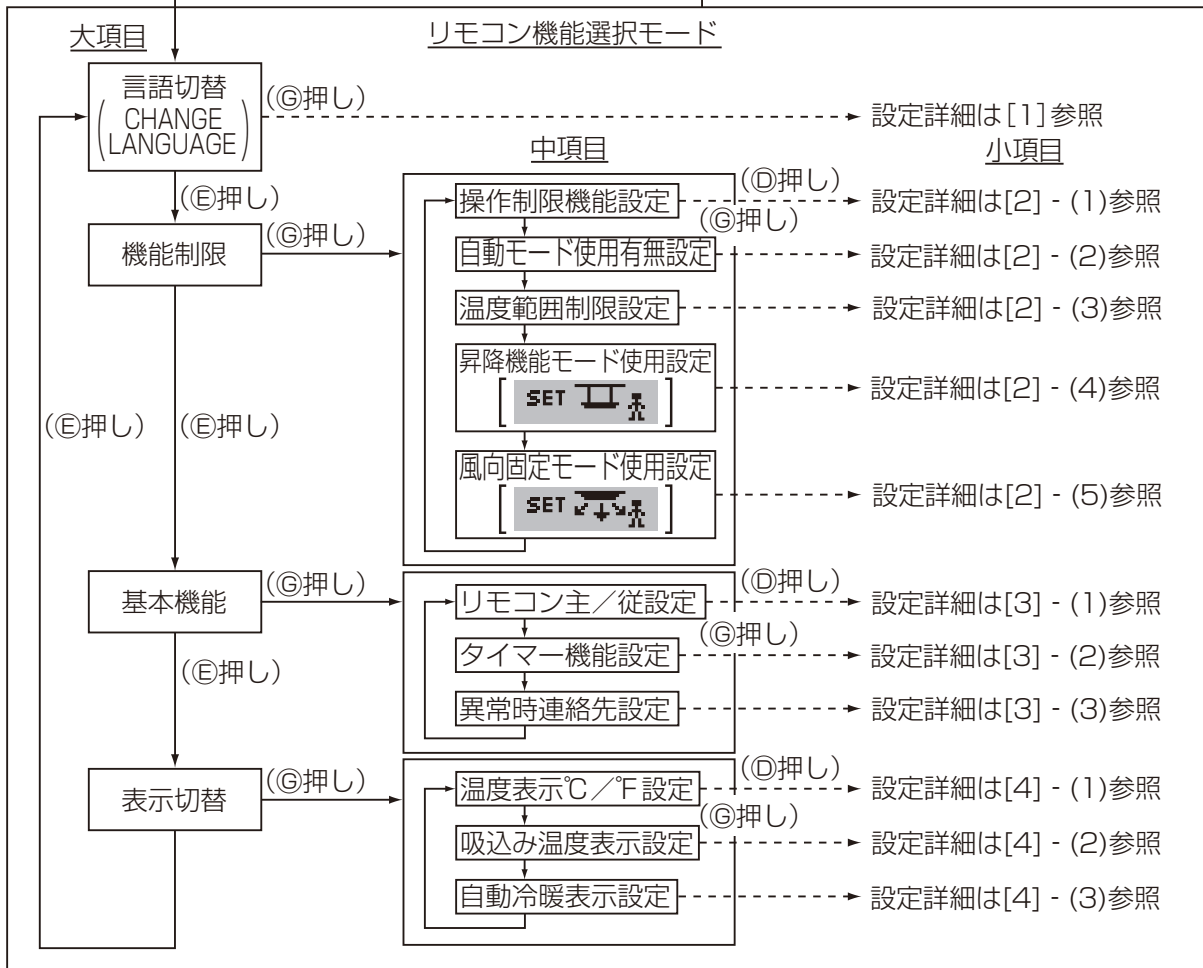
【お知らせ】

リモコン機能選択から通常画面に移行すると、タイマー運転は停止となります。

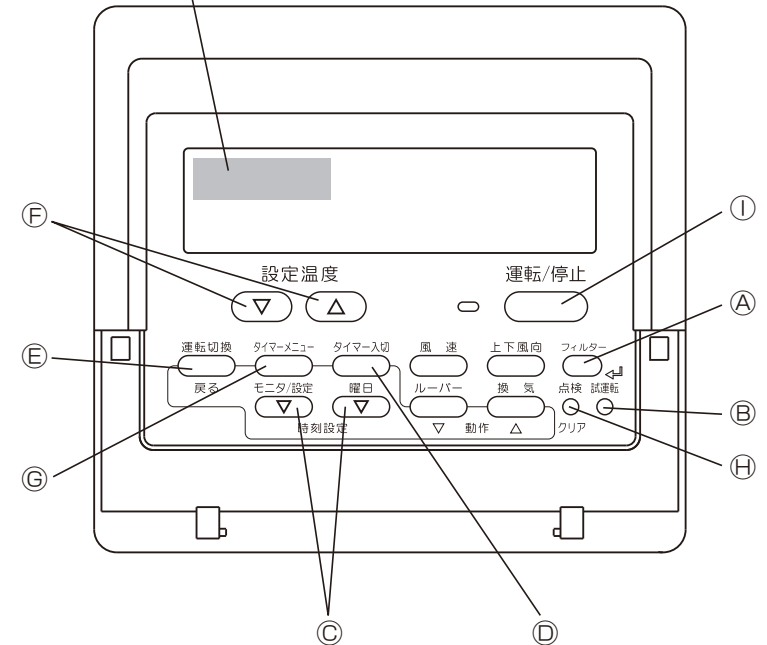
通常画面
(空調機停止状態表示画面)

(E)を押しながら(D)の2秒同時押し
※ユニット機能選択中、試運転中、
自己診断中は移行できません。

(E)を押しながら(D)の2秒同時押し
※本操作により設定した内容は
リモコンに記憶されます。



ドット表示部 (ドット表示は言語切替で設定した
言語表示となります。本説明書は
“日本語”設定の場合です。)



※リモコン機能選択から通常画面に移行すると、
タイマー運転は停止となります。

[設定詳細]

[1] 言語切替設定

本設定により、ドット表示部に表示する言語を設定します。

- ・ タイマーメニューボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ①日本語 (JP)、②英語 (GB)、③ドイツ語 (D)、④スペイン語 (E)、
⑤ロシア語 (RU)、⑥イタリア語 (I)、⑦中国語 (CH)、⑧フランス語 (F)

[2] 機能制限設定

(1) 操作制限機能設定 (操作ロック)

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① no1 : 運転／停止ボタン以外操作ロック設定となります。
 - ② no2 : 全ボタン操作ロック設定となります。
 - ③ OFF (初期設定値) : 操作ロック設定なしとなります。

※ 通常画面にて操作ロックを実行するには、上記設定後に通常画面にて実行操作（フィルターボタンと運転／停止ボタン同時2秒押し）が必要です。

(2) 自動モード使用設定

運転モード自動有りユニットに接続されている場合、下記内容の設定を行うことができます。

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① ON (初期設定値) : 運転モード選択操作時に自動モードを表示します。
 - ② OFF : 運転モード選択操作時に自動モードを表示しません。

(3) 温度範囲制限設定

設定内容変更後は、変更した範囲内で温度変更が可能となります。

- タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ①冷房モード : 冷房・ドライモードでの設定温度範囲を変更できます。
 - ②暖房モード : 暖房モードでの設定温度範囲を変更できます。
 - ③自動モード : 自動モードでの設定温度範囲を変更できます。
 - ④ OFF (初期設定値) : 温度範囲制限は実行されません。

※ OFF 以外が設定された場合、冷房、暖房、自動モードの温度制限設定が同時に実行されます。ただし、設定温度範囲が変更されていない場合は制限は実行されません。

- 設定温度△ボタン、または設定温度▽ボタンを押す毎に設定値がアップ、ダウンします。
- 風速ボタンを押して上限値設定、下限値設定を選択を切替えます。
選択された設定内容は点滅表示しており、この温度値を設定します。
- 設定範囲

冷房・ドライモード	: 下限値 : 19℃～ 30℃	上限値 : 30℃～ 19℃
暖房モード	: 下限値 : 17℃～ 28℃	上限値 : 28℃～ 17℃
自動モード	: 下限値 : 19℃～ 28℃	上限値 : 28℃～ 19℃

※ 設定範囲は接続されるユニット (スリム機種、マルチエアコン機種、中温機種等) により異なります。

(4) 昇降機能モード使用設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① ON : 昇降機能モードへの移行操作が有効となります。
 - ② OFF : 昇降機能モードへの移行操作が常時無効となります。

※ 移行操作：停止表示中にフィルターボタンと換気ボタンを同時に約 2 秒押してください。

- ・ 昇降機能モードでの設定詳細については、ユニットの説明書を参照してください。
昇降機能モードでは室内ユニットグリル（パネル）の昇降を行うことができます。

(5) 風向固定モード使用設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① ON : 風向固定モードへの移行操作が有効となります。
 - ② OFF : 風向固定モードへの移行操作が常時無効となります。

※ 移行操作：停止表示中にフィルターボタンを風速ボタンの同時に約 2 秒押してください。

- ・ 風向固定モードでの設定詳細については、ユニットの説明書を参照してください。
風向固定モードでは吹出口毎にベーン的位置を固定することができます。

[3] 基本機能設定

(1) リモコン主／従設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ①主 : 主設定となります。
 - ②従 : 従設定となります。

(2) タイマー機能設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます (いずれか一つを選択)
 - ①タイマーケシワスレ ポウシ : 消し忘れタイマー使用可能となります。
 - ②タイマーカンイ (初期設定値) : 簡易タイマー使用可能となります。
 - ③タイマー無効 : タイマー未使用設定となります。

(3) 異常時連絡先設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① CALL・OFF : 異常中に設定した電話番号は表示されません。
 - ② CALL・0120 *** ** : 異常中に設定した電話番号を表示します。
CALL・__ : 左記表示時、電話番号を設定します。
- ・ 電話番号設定方法
 - ①設定時に下記設定操作により電話番号を設定します。
 - 点滅しているカーソル (__) を移動して、数字を設定します。
 - 設定温度△ (▽) ボタンを押してカーソルを右 (左) に移動させます。
 - 時刻設定△ボタンまたは時刻設定▽ボタンを押して、電話番号を設定します。

[4] 表示切替設定

(1) 温度表示°C/°F設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ①°C : 温度表示単位をセ氏表示にします。
 - ②°F : 温度表示単位を華氏表示にします。

(2) 吸込み温度表示設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① ON : 吸込温度を表示します。
 - ② OFF : 吸込温度は表示されません。

(3) 自動冷暖表示設定

- ・ タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
 - ① ON : 自動モード運転時、「自動冷房」または「自動暖房」表示のどちらかが表示されます。
 - ② OFF : 自動モード運転時、「自動」のみが表示されます。

7-2. ユニット機能選択

スリムエアコンで変更が必要な場合のみ設定してください。(マルチエアコンでは、設定できません。)
リモコンより必要に応じて各ユニットの機能を設定します。各ユニットの機能選択はリモコンからのみ設定可能です。
「表 機能選択内容」より機能選択が必要な項目を選択してください。

お願い

- ・ スリムエアコンで変更が必要な場合のみ設定してください。
- ・ 「表．機能選択内容」は代表的なモード番号の内容です。室内ユニットの出荷設定内容・モード番号・設定番号についての詳細は室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。
- ・ 工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、全設定内容を別紙に記録するなど、設定状態を管理してください。

表．機能選択内容

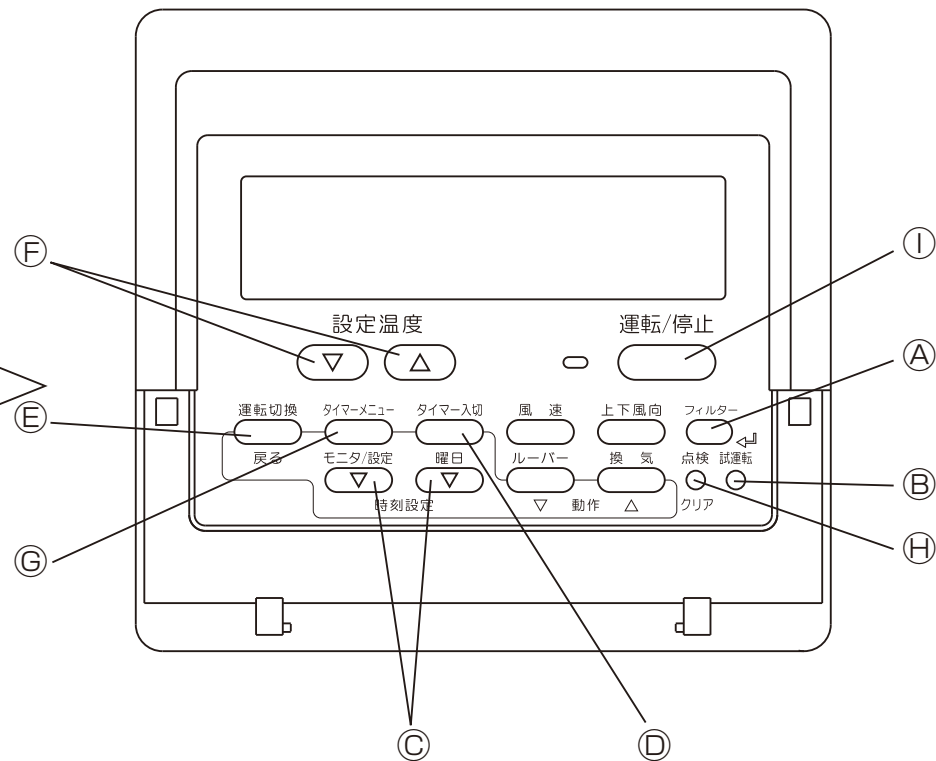
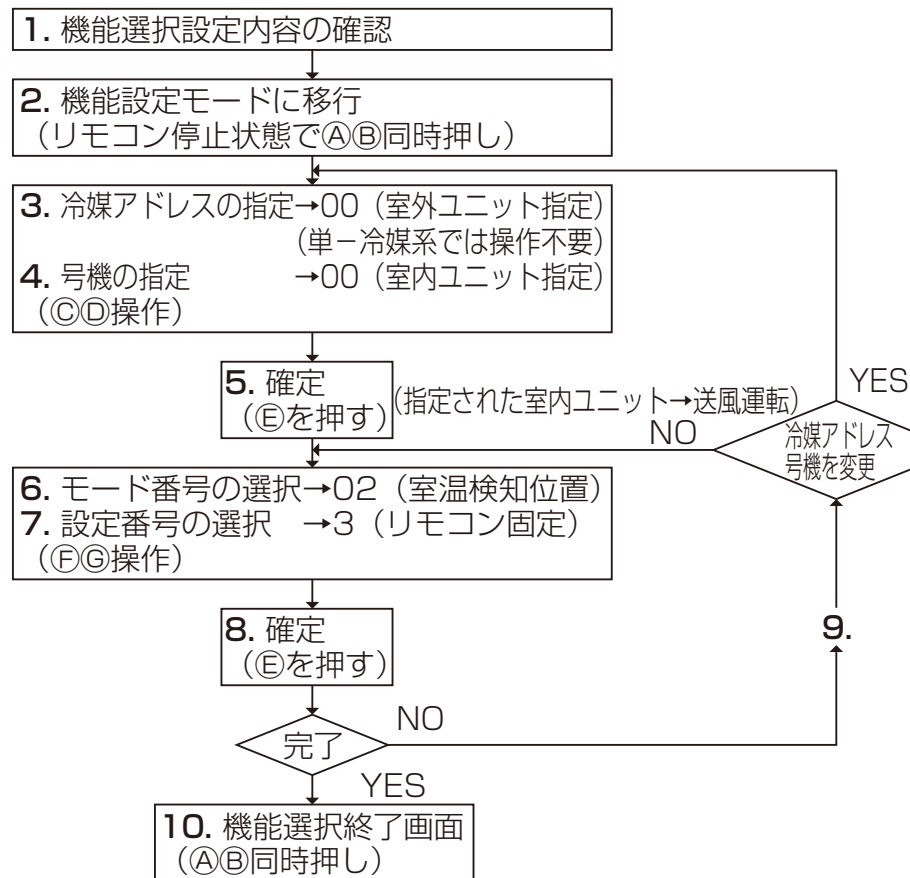
モード No.	モード	設定内容	設定番号	対象号機
01	停電自動復帰	無し	1	号機「共通」1 を選択します。 全室内ユニットに対して設定を行う項目です。
		有り (電源回復後、約 4 分間の待機が必要です)	2	
02	室温検知位置	同時運転室内ユニット平均	1	
		リモコン接続室内ユニット固定	2	
		リモコン内蔵センサー	3	
03	ロスナイ接続	接続無し	1	
		接続有り (室内ユニット外気取入れ無し)	2	
		接続有り (室内ユニット外気取入れ有り)	3	
16	加湿器制御切換	定時	1	
		常時	2	
17	霜取制御切換	標準	1	
		北陸仕様	2	

表. 機能選択内容

モード No.	モード	設定内容	設定番号	対象号機
07	フィルターサイン	100 時間	1	号機「1～4、全て」を選択して設定します。 各室内ユニットに対して設定を行う項目です。 ・「1～4」号機を選択した場合は、同時ツイン・同時トリプル・同時フォーの各室内ユニットごとに設定します。 ・「全て」を選択した場合は、同時ツイン・同時トリプル・同時フォーの各室内ユニット全て同一に設定します。
		2500 時間	2	
		表示無し	3	
08	風量	静音（または標準）	1	
		標準（または 高天井①）	2	
		高天井（または 高天井②）	3	
09	吹出し口	4 方向	1	
		3 方向	2	
		2 方向	3	
10	オプション組込 (高性能フィルター)	無し	1	
		有り	2	

[1] 機能選択の流れ

ここでは「表 機能選択内容」の“室温検知位置”の設定を例に説明します。
 (実際の操作については手順 1. ~ 10. を参照してください)



変更が必要な場合のみ設定してください。

手順

1. 機能選択の各モードの設定内容を確認する。

機能選択にて各モードの設定内容を変更した場合、そのモードの機能が変わります。

2. ～ 7. に従い現在の全設定内容を確認し、「表 機能選択内容」のチェック欄に記入の上、設定を変更してください。
なお、工場出荷時の設定については室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。

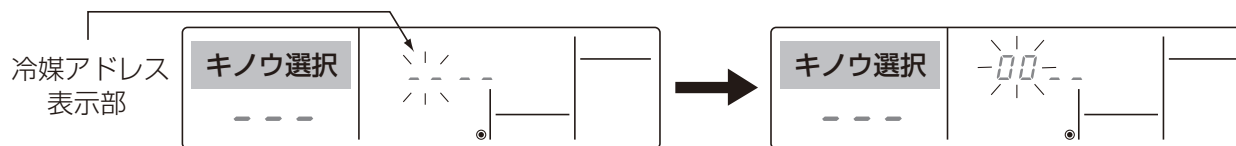
2. リモコンを停止にする。

Ⓐ [フィルター] と Ⓔ [試運転] ボタンを同時に 2 秒以上押します。

「キノウ選択」が点滅し、しばらくするとリモコンの表示が下図の表示になります。

3. 室外ユニットの冷媒アドレス No. を合わせる。

Ⓒ [▽][△] (時刻設定または時間設定) ボタンを押すと冷媒アドレス No. が 00 ～ 15 の間で前後するので機能選択したい冷媒アドレスに合わせます。(単一冷媒系では操作不要です。)



※ [機能選択] および室温表示部に「88」を 2 秒間点滅後、停止状態となる場合は、通信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

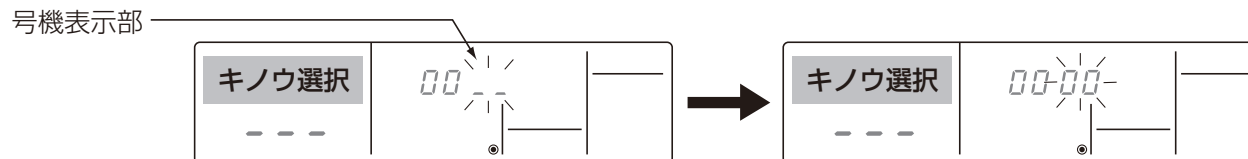
お願い

途中で操作を間違えた場合は、一度 10. にて機能選択を終了し、再度 2. より操作を行なってください。

4. 室内ユニットの号機を合わせる。

㊦ [タイマー入切] ボタンを押し、号機表示部「—」を点滅させます。

㊧ [▽][△] (時刻設定または時間設定) ボタンを押すと号機が 00 → 01 → 02 → 03 → 04 → AL と変化するので機能選択したい室内ユニットの号機に合わせます。



※ モード 1 ~ 3 を設定する場合は、「00」に合わせてください。

※ モード 7 ~ 11 を設定する場合は、

- 各室内ユニットごとに行なう場合は、「01 ~ 04」に合わせてください。
- 全室内ユニット一括に行なう場合は、「AL」に合わせてください。

5. 冷媒アドレス、号機を確定する。

⑤ [運転切換] ボタンを押し、冷媒アドレス、号機を確定します。

しばらくするとモード番号表示部「—」が点滅します。



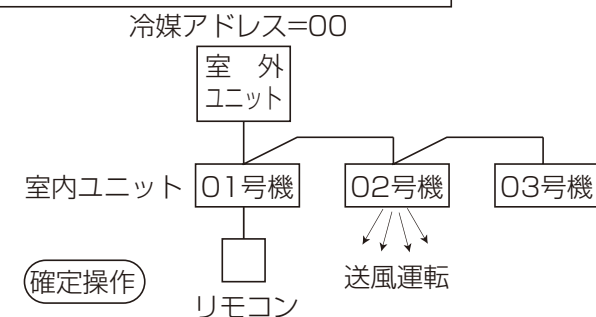
※ 室温表示部に「88」が点滅表示する場合、選択した冷媒アドレスがシステム内にありません。

また、号機表示部が「F」となり、冷媒アドレス表示部とともに点滅表示となる場合は、選択した号機が存在しません。**3.**、**4.**にて冷媒アドレス、号機を正しく設定してください。

お知らせ

⑤ [運転切換] ボタンにて確定操作をすることにより、確定された室内ユニットが送風運転を開始します。機能選択する号機の室内ユニットがどこにあるのか知りたい場合はこれにより確認してください。なお、号機が00、ALの場合は選択した冷媒アドレスの全室内ユニットが送風運転します。

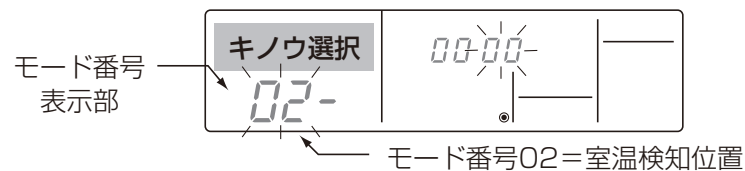
例) 冷媒アドレス00、号機=02確定時の場合



※ 異冷媒系統でグルーピング時、指定した冷媒アドレス以外の室内ユニットが送風運転する場合、ここで設定した冷媒アドレスの重複が考えられます。再度、室外ユニットのディップスイッチにて冷媒アドレスの確認をしてください。

6. モード番号を選択する。

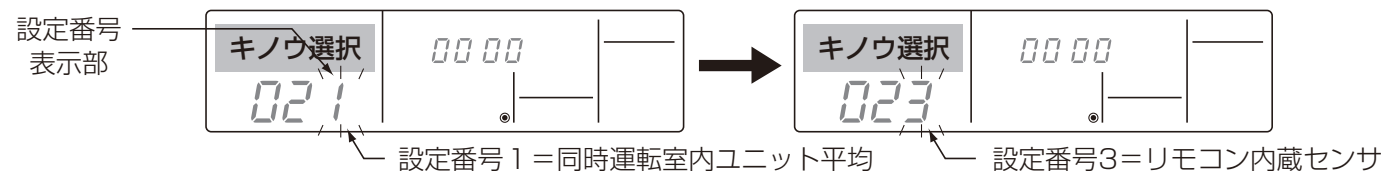
⑥ [▽] [△] (設定温度) ボタンにより設定したいモード番号を設定します。(設定可能なモード番号のみ選択できます。)



7. 選択したモードの設定内容を選択する。

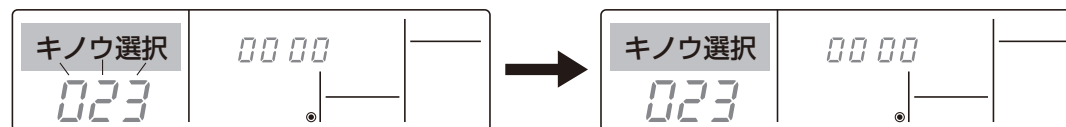
③ [タイマーメニュー] ボタンを押すと、現在設定されている設定番号が点滅します。これにより現在の設定内容を確認してください。

⑥ [▽] [△] (設定温度) により設定番号を選択します。



8. 3. ～ 7. の設定内容を確定させる。

⑤ [運転切換] ボタンを押すと、モード番号と設定番号が点滅し登録を開始します。モード番号、設定番号の点滅が点灯になり、設定が完了します。



※ モード番号および設定番号が「—」となり室温表示部に「88」が点滅表示となる場合は、通信異常が考えられます。

伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

9. 更に、他の機能選択を行う場合は、3. ～ 8. の作業を繰り返し行なう。

10. 機能選択を終了する。

④ [フィルター] と⑤ [試運転] ボタンを同時に 2 秒以上押します。
しばらくすると機能選択画面が解除され、空調機停止画面へ復帰します。



※ 機能選択終了後、30 秒間リモコンより操作しないでください。

お願い

工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、全設定内容を「表 機能選択内容」のチェック欄に○印などで記入して確認ください。

7-3. 換気設定

[1] ロスナイ設定（マルチエアコンのみ）

マルチエアコン機種でロスナイとの連動運転を行う設定が必要な場合のみ設定してください。

（スリムエアコンでは、設定できません。）

※ 上位コントローラが接続される場合は、上位コントローラより設定してください。

お願い

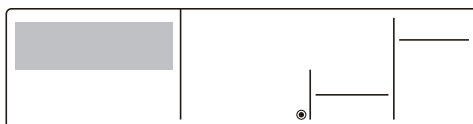
ロスナイと連動設定させる場合、グループ内全ての室内ユニットアドレスとロスナイのアドレスを連動設定してください。

リモコンが接続されている室内ユニットのロスナイ登録、登録した内容の検索、登録抹消設定を行う場合この操作を行います。

ここでは、室内ユニットアドレス 05、ロスナイアドレス 30 の場合を例に説明します。

手順

1. リモコンの [運転 / 停止] ボタンで空調機を停止の状態にする。
このとき、以下の停止表示でなければ、**2.** の操作ができません。



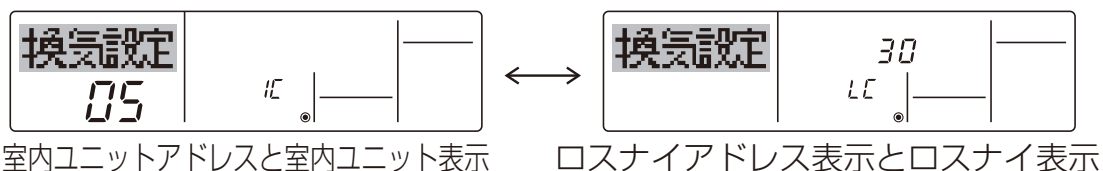
2. [フィルター] と [ルーバー] ボタンを同時に 2 秒押しすると下図の表示になる。



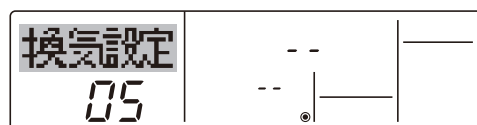
3. 現在リモコンが接続されている室内ユニットが登録しているロスナイの検索を行う。

登録検索結果

- 室内ユニットのアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示します。



- ロスナイが登録設定されていない場合



4. ここで、何も設定する必要がなければ、[フィルター]と[ルーバー]ボタンを同時に2秒押しし、終了する。

新たにロスナイを登録する必要がある場合は、「(1) ロスナイを登録する場合」の項へ

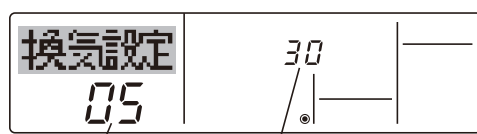
ロスナイの検索をしたい場合は「(2) ロスナイアドレスを検索する場合」の項へ

現在の登録されているロスナイを抹消する場合は、「(3) ロスナイの登録を抹消する場合」の項へ

(1) ロスナイを登録する場合

手順

- ロスナイと登録設定したいリモコンが接続されている室内ユニットのアドレスを設定温度[▽]、[△]を操作し、設定する。(01～50)
- 登録設定したいロスナイのアドレスを時刻設定(または時間設定)[▽]、[△]ボタンを操作し設定する。(01～50)

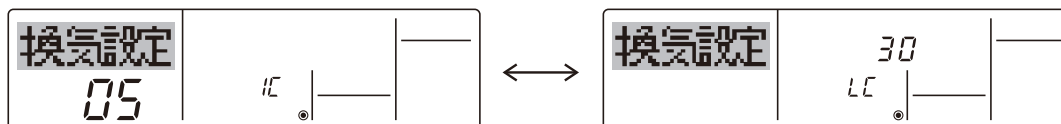


室内ユニットアドレス ロスナイアドレス

3. [試運転] ボタンを押し、設定した室内ユニットアドレスとロスナイアドレスの登録を行う。

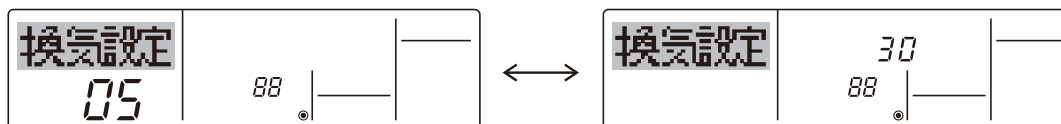
登録の完了表示

室内ユニットのアドレスと「IC」、登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。



登録エラー表示

登録がうまく行かなかったとき室内ユニットのアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示



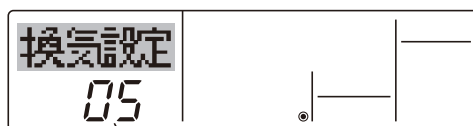
登録設定した室内ユニットまたはロスナイが存在しないので登録できません。

登録設定した室内ユニットに別のロスナイが登録済みなので登録できません。

(2) ロスナイアドレスを検索する場合

手順

1. ロスナイの検索をしたいリモコンが接続されている室内ユニットのアドレスを設定温度 [▽]、[△] ボタンを操作し、設定する。(01 ~ 50 まで)

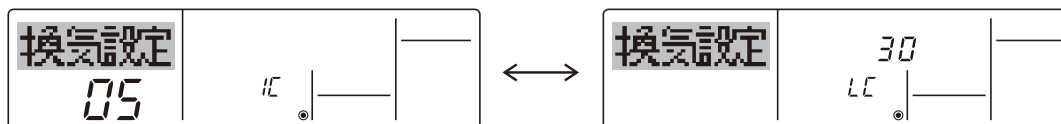


室内ユニットアドレス

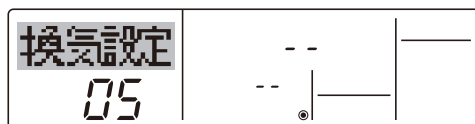
2. [タイマーメニュー] ボタンを押し設定した室内ユニットアドレスに登録されたロスナイアドレスの検索を行う。

検索の完了表示（ロスナイ接続有りのとき）

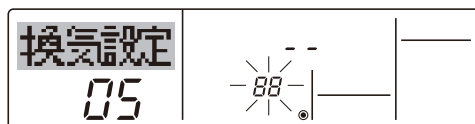
室内ユニットのアドレスと「IC」登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。



検索の完了表示（ロスナイ接続なしのとき）



指定した室内ユニットのアドレスが存在しません。

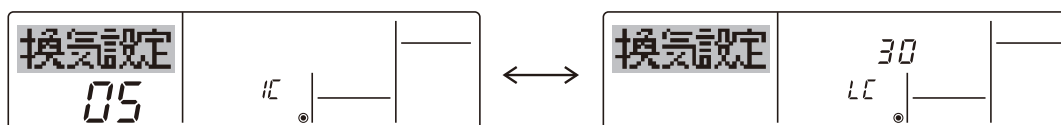


(3) ロスナイの登録を抹消する場合

リモコンが接続されている室内ユニットとロスナイの登録設定を抹消する場合に使用します。

手順

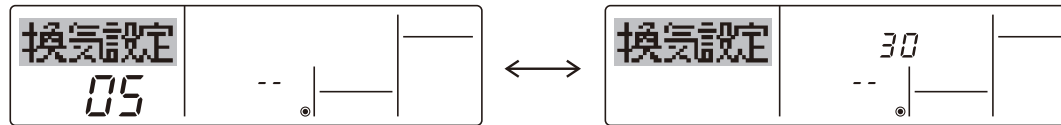
1. 抹消させたいロスナイの検索（「(2) ロスナイアドレスを検索する場合」の項参照）を行い、室内ユニットとロスナイの検索結果表示状態にする。



2. [タイマー入切] ボタンを2度押しし、設定した室内ユニットアドレスに登録されたロスナイアドレスの登録の削除を行う。

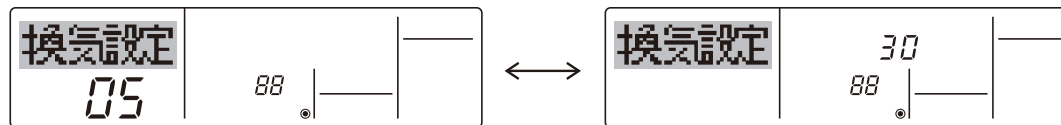
抹消の完了表示

室内ユニットのアドレスと「--」、登録設定されたロスナイのアドレスと「--」を交互表示します。



抹消エラー表示

抹消がうまく行かなかったとき



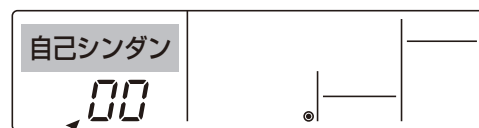
8. サービスメニュー

[1] 自己診断

リモコンにて各ユニットの異常履歴を検索します。

手順

1. 自己診断モードに移行する。
Ⓜ [点検] ボタンを 3 秒以内に 2 回押すと、下図の表示になります。
2. 自己診断したいアドレスまたは、冷媒アドレス No. に合わせる。
Ⓧ [▽] [△] (設定温度) ボタンを押すと 01 ~ 50 または、00 ~ 15 の間で前後するので自己診断したい自己診断対象アドレス No. または、冷媒アドレス No. に合わせます。

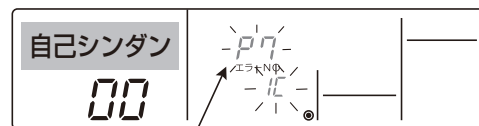


自己診断対象アドレスまたは、
自己診断対象冷媒アドレス

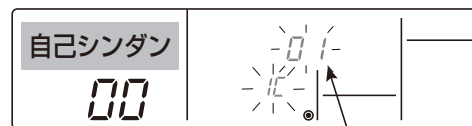


変更操作してから約3秒後、自己診断冷媒アドレスが点灯から点滅に変わり診断処理を開始します。

3. 自己診断結果表示を確認する。
〈異常履歴がある場合〉
(異常コードの内容は室内ユニットの据付工事説明書またはサービスハンドブックを参照してください)

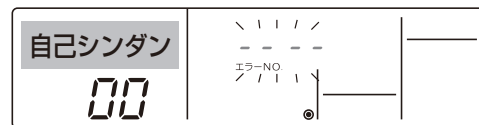


異常コード4ケタまたは、2ケタ

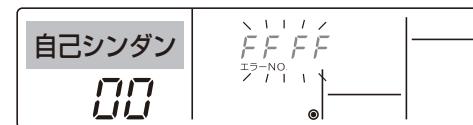


アドレス3ケタまたは、号機2ケタ

〈異常履歴がない場合〉

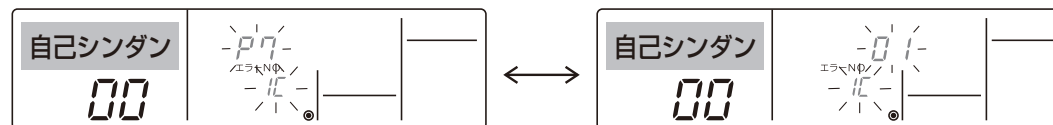


〈相手が存在しない場合〉



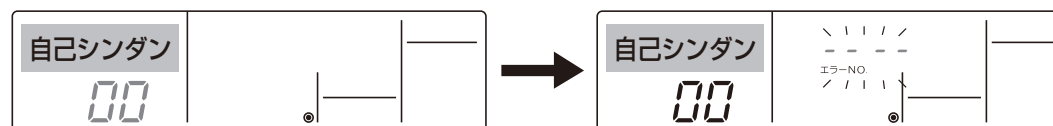
4. 異常履歴をリセットする。

3. の自己診断結果表示の画面にて異常履歴を表示させる。



ⓐ [タイマー入切] ボタンを連続で 3 秒以内に 2 度押しする。
自己診断対象アドレスまたは、冷媒アドレスが点滅します。

異常履歴がリセットされた場合、下図の表示になります。
なお、異常履歴リセットに失敗した場合は異常内容が再度表示されます。



5. 自己診断を解除する。

自己診断の解除には次の 2 通りの方法があります。

- ⓑ [点検] ボタンを 3 秒以内に 2 度押す → 自己診断を解除し、自己診断前の状態になります。
- ⓒ [運転/停止] ボタンを押す → 自己診断を解除し、室内ユニットが停止となります。
(操作禁止状態時、この操作は無効です。)

9. 試運転

お客様立ち会いで試運転を行なってください。

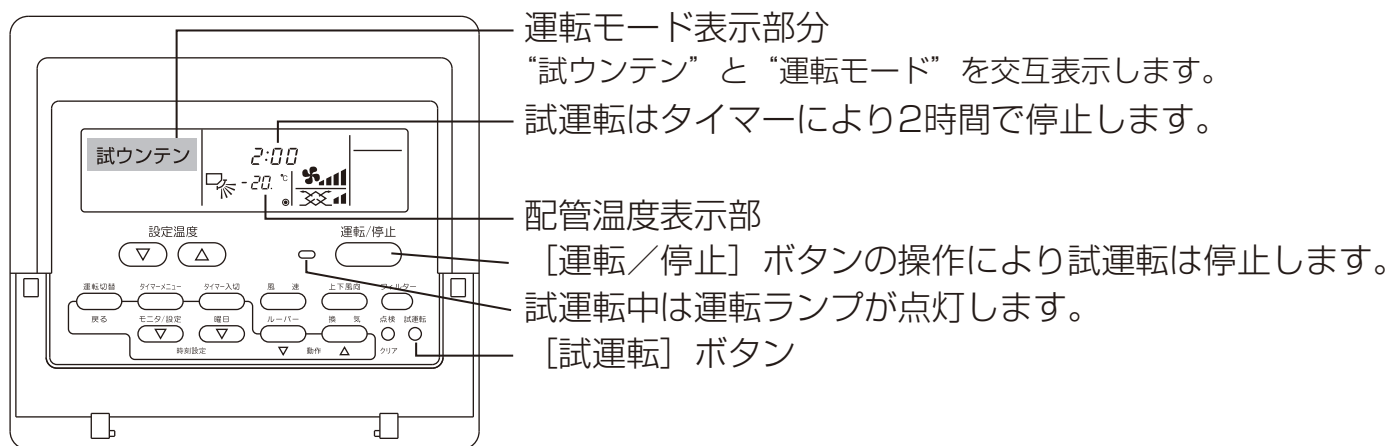
9-1. 試運転の準備

据付工事説明書に従って本機の据付工事が完了しているか、また、室内ユニット、室外ユニットの据付工事が完了しているか確認してください。

9-2. 試運転の方法

試運転の詳細は、室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。

9-3. 試運転



[1] 運転する

[試運転] ボタンを3秒以内に2回押すと、試運転が行なえます。

[2] 停止する

[運転/停止] ボタンの操作により試運転は停止します。

[3] その他

試運転によって異常が発生した場合には室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目を参照してください。

10. 修理を依頼する前に

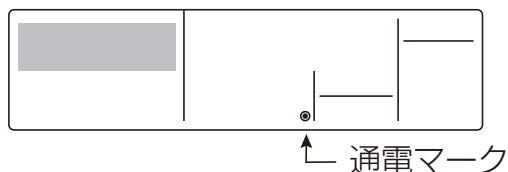
10-1. リモコン診断

リモコンからの操作がきかない場合、本機能により、リモコン診断を行なってください。

手順

1. まずは通電マークを確認する。

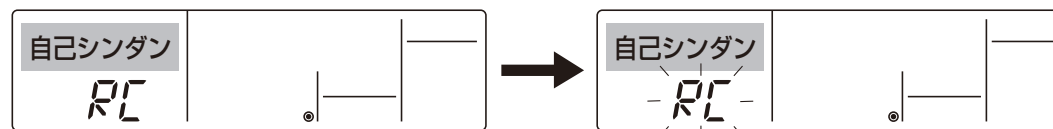
リモコンに正常な電圧（DC12V）が印加されていない場合、通電マークは消灯しています。通電マークが消えている場合は、リモコン配線、室内ユニットを点検してください。



2. リモコン診断モードに移行する。

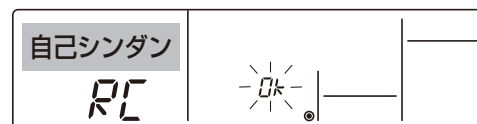
Ⓜ [点検] ボタンを5秒以上押し続けると、下図の表示になります。

Ⓐ [フィルター] ボタンを押すと、リモコンの診断を開始します。



3. リモコン診断結果を確認する。

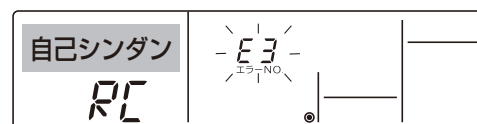
リモコン正常時



リモコンに問題はありませんので他の原因を調査してください。

リモコン診断したリモコン以外に問題が考えられる場合 (異常表示 2)

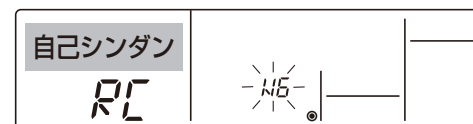
「E3」「6833」「6832」が点滅→送信不可



伝送線にノイズがのっている、あるいは室内ユニット、他のリモコンの故障が考えられます。伝送路、他のリモコンを調査してください。

リモコン不良時

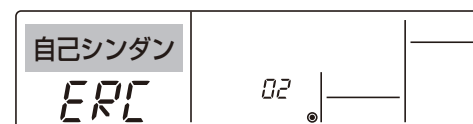
(異常表示 1) 「NG」が点滅→リモコン送受信回路不良



リモコンの交換が必要です。

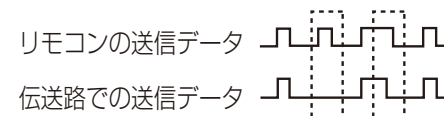
(異常表示 3)

「ERC」とデータエラー数を表示→データエラーの発生



データエラー発生数とはリモコンの送信データのビット数と実際に伝送路に送信されたビット数の差を意味します。この場合、ノイズなどの影響で送信データが乱れています。伝送路を調査してください。

データエラー発生数が02の場合



4. リモコン診断を解除する。

⊕ [点検] ボタンを5秒以上押し、リモコン診断を解除し、「PLEASE WAIT」、運転ランプが点滅し、約30秒後、リモコン診断前の状態に戻ります。

11. お客様への説明

- 別冊の取扱説明書に従って、お使いになる方に正しい使い方をご説明ください。
- お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- 「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- この据付工事説明書は、据付け後、同梱の取扱説明書・据付工事説明書（設定編）と共にお使いになる方にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合、この据付工事説明書を新しくお使いになる方にお渡しください。

12. 法令関連の表示

- 本製品を含む空調システムは長期間の使用に伴い、製品を構成する部品に生ずる経年劣化などにより、安全上、支障が生じたり、本来の性能が発揮できないおそれがあります。空調システムを良好な状態で長く安心してご利用していただくために、販売会社または認定技術者と保守契約することで、技術者がお客様に代わって定期的に点検いたします。万一の故障時も早期に発見し、適切な処置を行います。
- 標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合や、経年劣化を進める事情が存在する場合には、設計使用期間よりも早期に安全上支障をきたすおそれがあります。

12-1. 日常の保守

12-1-1. カバーの清掃

中性洗剤を柔らかな布に含ませて拭き、最後に乾いた布で洗剤が残らないように拭き取ります。ベンジン・シンナー・磨き粉の使用は避けてください。

- ※ 中性洗剤は、使用量の目安までうすめて使用してください。
原液のまま使用しないでください。

12-2. 点検時の交換部品と保有期間

<参考> 主要部品の交換周期

主要部品名	交換目安周期
リモコン	10年

※ 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。

※ 交換周期は保証期間とは異なります。

※ この保全周期は、製品を長く安心してご使用いただくために、保全行為が生じるまでの目安期間を示していますので、適切な保全設計（保守点検費用の予算化）のためにお役立てください。





三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号(東京ビル)

WT07615X03